

# 日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

# 普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2022年8月30日

元気が出る  
みんなの  
取り組みを  
ご紹介

## 楽しく普及拡大

ほいく誌と一緒に  
連絡協議会の取り組みも  
伝えよう！

教えたくないけれど……、ほいく誌のあのページを活用せよ！

ほいく誌 73 ページとえば！?

「地域連絡協議会のページ」です。なんと、このページでは都道府県連絡協議会からのお知らせを無料で掲載してもらえます。

打ち上げ花火型活動の多い岡山県学童保育連絡協議会は、ピンポイントの企画力や瞬発力はすごいと自負しています。しかし、弱点は、計画性やていねいな広報です。2022年10月初旬に岡山県学童保育研究集会を行うので、9月15日に発行される10月号に告知を載せないといけない。10月号に掲載する広告の申し込みは8月15日頃まで……。うーん、しかし、10月号では遅いかも。7月15日がしめきりとなる9月号では詳細が決まっていない。よっしゃ、予告編だ！ということで、内容と日程とインパクトのある写真とで構成することにして、『LINE』グループを活用して調整。できあがり本誌でご確認ください。

## 岡山県 の 取り組み

## 迅速な配本システムが嬉しい！ 私たちの地域発信の情報も一緒に届けてください！

8月号に書籍広告を掲載した折には、発行日直後、すぐに他県の方から申し込みがあったので、当該連協内の配本システムのすばらしさに感服しました。岡山県連協では9月号の研究集会予告をはじめとして、11月号では岡山市の「人権事業」を活用してのシンポジウムを予定しています。しかし、掲載希望が多いと、初めて申し込んだ地域が優先されるので、結局、岡山県連協の野望は打ち砕かれるのか……。だから、お願いします。みんな申し込まないでくださいね。

「地域連絡協議会のページ」の活用で、ほいく誌発行が役員に意識される、催しが定期的に準備できるという一石二鳥で、しかも無料！ 毎号、県連協ニュース代わりに使いたいぐらいです。



## 日本の学童ほいく 9月号

### 特集 仲間と共に育ちあう

#### —— 障害のある子と学童保育

今回の特集では、共に過ごすなかで関係を築いていく子どもたちの様子、指導員の学んだこと・気づいたこと、保護者の思いや願いを交流し、「一人ひとりの子どもが安全に安心して過ごせる場を保障する」という視点から「学童保育の生活で大切にしたいこと」について学びあいます。



# 日本の学童ほいく

みんなで読もう目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

# 普及拡大 ニュース

2022年8月30日



## 読者のひろばより

### 長崎県大村市 ● 保護者から

2022年4月号の特集「春☆『ただいま』『おかえり』学童保育」に川村まりさんが書かれた「たくさんの出会いとつながりに支えられた日々」を、卒業した長男が入所したばかりの頃を思い出しながら読みました。本人の成長はもちろん、学童保育での生活をとおして、異なる学年の子どもたちとの関わり方、協調性などたくさんのことを学んだ6年間でした。

親の私自身も、はじめての子どもの小学校生活にとまどったり不安もありましたが、学童保育がいつも寄りそってくれていたように思います。3月の卒業式の後、指導員の先生方にごあいさつにうかがうと、思わず涙があふれました(私が……笑)。一緒に子育てしていただいた“同志”のような……本当に感謝です。

『日本の学童ほいく』2022年9月号「読者のひろば」より

### 山形県天童市 ● 保護者から

2022年5月号の「出会い 集い 父母会」のコーナーに塚原良輔さんが書かれた「心意気と助けあいを力に、これからも楽しい父母会を！」を読みました。塚原さんは、コロナ禍の前後で、学童保育の保護者会活動は大きく変化しているとおっしゃっています。

わが家では、コロナ禍のなか小学校に入学した娘が、学校でも学童保育でもとても制限された生活をおくっています。そのような状況下でも学童保育では、指導員の方々が可能な方策をさぐりつつイベントを企画してくれ、川遊びやクリスマス会に参加した娘はとてよるこんでいました。そのような様子を見ると、やはり、友達や地域の人々との関わりが子どもの心の成長に大きく影響を与えているように感じました。

まだしばらくコロナ禍はつづきそうですが、子どもと保護者が一緒に行える活動に参加して、塚原さんがおっしゃるように、わが子の成長を「特等席」で見守っていきたいと思いました。

『日本の学童ほいく』2022年9月号「読者のひろば」より

私と『日本の学童ほいく』との出会いは20年以上も前になります。

指導員として働きはじめた私は、ただただ日が暮れるまで子どもたちと一緒に遊ぶことが楽しくてなりませんでしたが、しかし間もなく、同僚指導員から子どもたちとのかかわりに指摘を受けることが増え、何がよくて何が悪いのかに戸惑い、悩むようになりました。

当時は「けがをしないように、子どもたちを見ていてください」という運営者や同僚指導員と、話がなかなかかみ合わなかったのです。そんななか、ほいく誌にたどり着いたことで、決して大げさではなく、私の人生は大きく変わったと思っています。

ほいく誌が届くたびに、毎月食い入るように読みました。ほいく誌のなかには学童保育で共に成長する子どもの姿や奮闘する指導員の、私にとってはあこがれる実践があふれていました。

それは、「自分が進みたいと思う方向は、きっとまちがっていない」と励まされる思いでした。そして、佐賀県の仲間とまずは学びあう研修会を始め、今に至ります。

もしかしたら今も20年前の私のように、孤独な気持ちで日々をおくっている方がいるのではないかと思います。読んで、話して、確かめあう大切な『日本の学童ほいく』を届けたいです。

私と「ほいく」誌

読者リレー執筆・今月は佐賀県から  
NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会  
石橋裕子さん

